

シリーズ  
**走れ！ 物流委員会**

業界団体が取組む物流効率化②

# 中小倉庫事業者が生き残りを賭け、 協業で「バーチャル・ロジスティクス」

～協同組合 物流情報ネット・イー～  
(Net-e)

## サプライチェーン全体で 庫内作業でのモノと情報を一致

わが国の近代倉庫事業者の歴史は古い。明治10年以降に倉庫事業者が独立企業として認可され、民間商人が葺屋敷などの倉庫で大量貨物を扱ったことに端を発する。

大正期に入ると第一次世界大戦の影響による好景気に支えられ、倉庫業も近代化の様態を整えていった。第二次世界大戦と復興期を経て、高度経済成長期には、貿易の伸長、近代化への諸施策、料金の適正化などが進み、倉庫業も大いに発展。重厚長大、大量生産、大量消費の産業構造に支えられ、パレット/ケース単位の荷役による少品種大量保管が主流となった。

しかし昭和60年代から平成に入り、経済が安定成長期に入ると消費形態が多品種少量型の製造形態へと多様化し、倉庫も“物を預かり、利益を生む”だけではなく、多頻度小口化、リードタイム短縮など新たなニーズに対応する必要に迫られた。機会損失の回避と在庫の削減を両立させることが大きな課題となり、近年は物流業務のアウトソーシングが拡大するなかで、企業のロジスティクス上、倉庫の役割が大きく問われることになった(写真-1)。



写真-1  
機能面を重視した都市型倉庫

現在の倉庫では“どこから”“いつ”“何が”“どこへ”“どれくらい”の数が流れたかなど、サプライチェーン全体の中でモノと情報を一致させ、的確に把握することが喫緊の課題とされている。

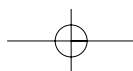
それを解決するのがWMS(倉庫管理システム)に代表される情報システム、Webを活用したネットワーク、そして企業同士のコラボレーションではないだろうか。

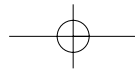
協同組合 物流情報ネット・イー(大谷巖一理事長/以下ネット・イー)の取り組みは、これらの武器を駆使した中小企業者の起死回生の一手だといえる。

## 24時間稼働による 同業者のコラボレーション

ネット・イーは2002年8月に設立、関東地区の倉庫事業者、運輸事業者6社(東運開発、秋元運輸倉庫、拓洋、丸新運輸、館林運輸、アバンセロジスティック)を中心に、現在124社の倉庫事業者、運送事業者から構成されている団体である。

一般的に倉庫事業者は社歴により三井、三菱、住友などの財閥系企業(社歴100年以上)、老舗倉庫事業者(80年以上)、日本通運、佐川急便などの運送会社(50年以上)、物流子会社(30年以上)、貸し倉庫業から倉庫業に移管した企業(20年以上)の5つに分類されるが、ネット・イーでは老舗企業がその中核を担っている。





「老舗中小企業から“番頭”が集まってできた団体です。主要メンバーは自由な発想で意見を交換し、その結果、同業者同士のコラボレーションができました」と語るのは事務局長の鈴木清氏だ。



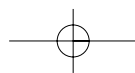
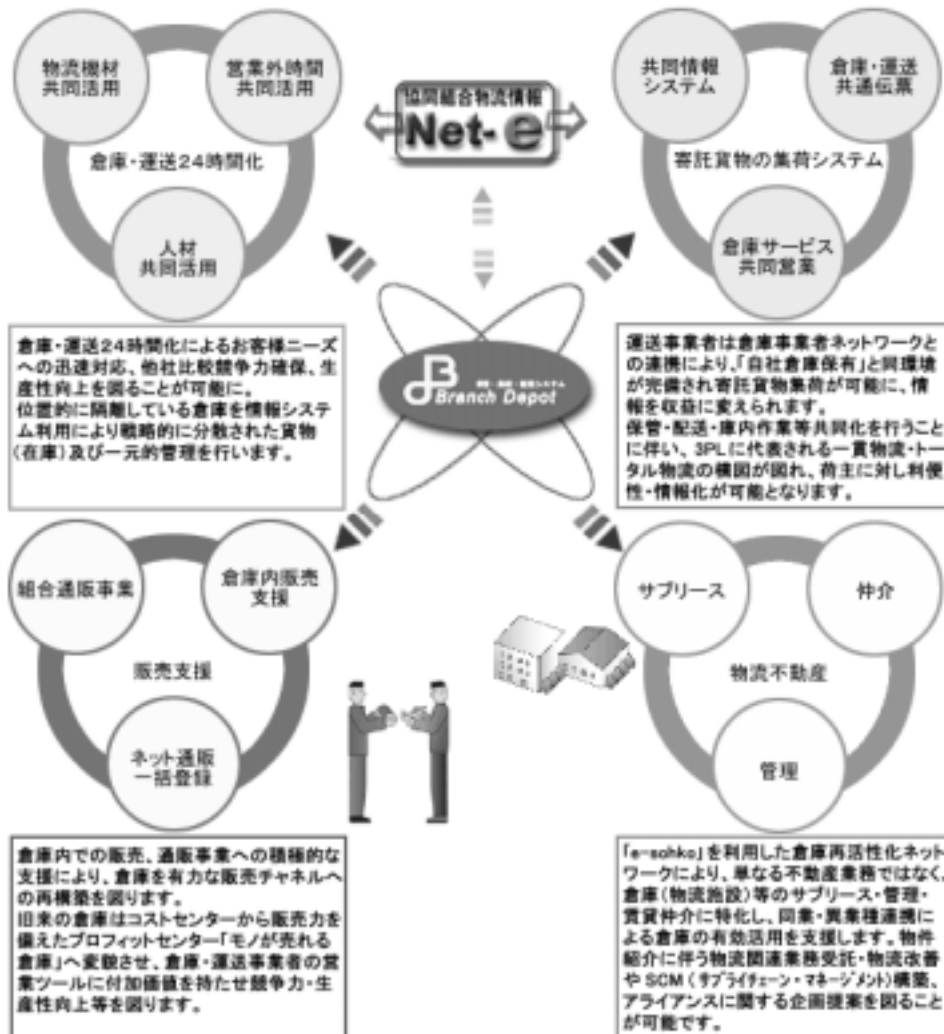
鈴木清事務局長

物流業者を取り巻く環境は依然厳しく、大手総合物流事業者を除けば、2,800社の倉庫事業者と5万5,000社の運送会社が凌ぎを削る生殺与奪の時代になっている。「倉庫業単体で黒字を出している会社はごく一部でしょう。相見積りでの価格競争に勝ちぬくための利幅の低い料金体系、倉庫を寄託契約ではなく面積単位で賃

貸借する坪貸、人員削減などで利益を出している」(同)のが実態だ。

そこでブランド、倉庫規模、運送手段で大きなアドバンテージがある大手物流企業への対抗手段としてネット・イーが選択したのが「弱者

図表 - 1 ブランチデポの概要



の論理と言われる、ニッチに小回りを効かすグリラ戦法」(同)だった。

「バーチャル・ロジスティクスと呼んでいますが、倉庫、物流センター、車両、要員など各社の物流資産をITで一元管理することが特長で、組合全体が1社の総合物流事業者としてサービスを提供できます。我々は生き残り策としてブランチデポを立ち上げました」(同)。

ネット・イーが構築したブランチデポは、ITを活用した倉庫・運輸業の24時間化と寄託貨物の集荷を柱とするプラットフォーム(図表-1)。固有の物流ファンクション(機能と資産)を1つの窓口で自由に利用できるシステムで、複数倉庫の一元管理、単一伝票を利用した輸配送手配、物流情報照会と指図登録、物流不動産情報検索などのサービスを提供するビジネスモデルだ。

物流管理システムには株式会社エス・エル・シーの開発したWMS、“LogiStream”を採用した(図表-2)。Windows.NET環境で新たに開発したもので、エンジンをWebサーバ上で稼働させることにより、複数倉庫・複数荷主の管理、無線LANハンディ端末を使った倉庫運用支援が可能となる。

組合員各社の倉庫では高速インターネット回線(ADSL以上)とPC、無線LANハンディ端末のLAN環境を準備するだけで導入可能。各地に立地する倉庫とネットワークを結び、保管貨

物明細の統合管理や共通運用環境を提供、入荷検品、ピッキング、出荷検品、棚卸などの作業を行なえる。

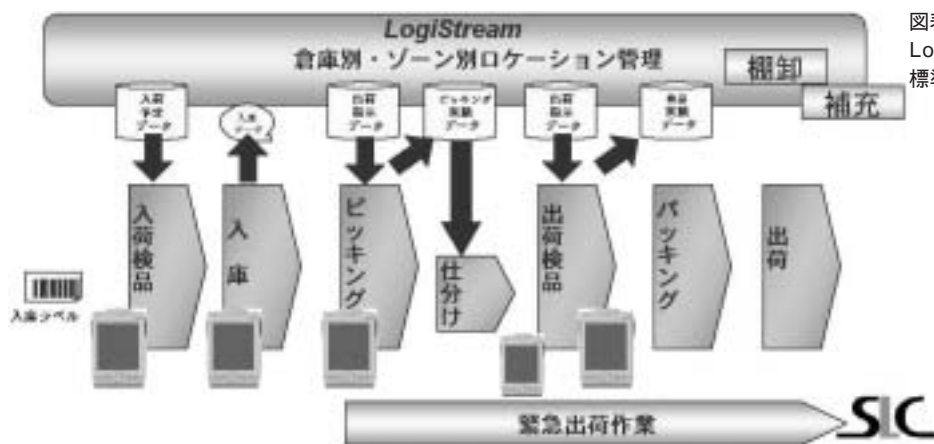
各作業はハンディ端末が指示したロケーションに行き、決められた作業を一定の手順で行い、バーコードで商品の確認、数量チェックすることにより、正確で効率よい作業が実現している。

### 効率向上、誤出荷率低下 物流品質アップを実現

今回の主な導入要件として、荷主はカートン単位での荷物状況を把握可能とする点、入出庫、ピッキング等の庫内作業はカートンに貼付したバーコードラベルとハンディ端末を活用する点、返品処理の充実などにネット・イーではウエイトを置いた。

「倉庫業はサービス業であり、ある意味で銀行と同じ役割を担っています。お客様から荷を受けた時点でその保管はすべて我々の責任となり、紛失、盗難などの管理はもちろんですが、お客様によりよいサービスを提供するため」(同)だ。

組合員各社の倉庫をWeb上で自在に管理できるため、入出荷、受け渡しのデポには都市型倉庫を、近隣・近郊倉庫は季節製品・補完型ストレージデポとして、それぞれ機能的に活用することが可能。



図表-2  
LogiStreamの  
標準運用ワークフロー

図表 - 3 イー倉庫ドットコムでは倉庫、物流センターなどの空き情報などを掲載  
(http://www.e-sohko.com/)



横持ち移動・輸配送は組合企業の帰り便を活用、各倉庫の輸配送ネットワークにはロジック、トラボックスなどのWeb求車配車システムを利用するなど、車両の高効率活用とローコストオペレーションを実現。まさにITを多角的に利用した保管・輸配送のトータル物流サービス事業といえる。

また無線LANハンディ端末での庫内作業は端末の指示により作業平準化ができ、バーコードでの商品の確認、数量チェックにより、正確で効率よい作業が実現した。

こうしたシステムの導入により、「ピッキングなど庫内作業の効率化はもちろん 誤出荷率の低下など、物流品質も大幅に向上しています」と鈴木事務局長は話す。「中小企業が大手物流業者に立ち向かうための武器は身につけました」

### 1社でも多くの企業とWin-Winを目指したい

WMSを導入する物流事業者の大半は、すでに取引のある荷主の既存システムにその情報管

理を委ね、荷主サイドの財務・営業システムに依存しているケースも多い。「WMS導入には莫大なコスト負担がかかるため、これまで大手物流事業者の独壇場でした」と鈴木事務局長はいう。

そこでネット・イーは、ASP(Application Service Providers)の利用に戦略の活路を見出した。協同組合本部にサーバを設置し、WMSを購入するのではなくASP方式で使用した分だけの料金を負担することで、安いコストでの導入を実現させたのだ。

組合員側は新たな設備投資不要、荷主はインターネットを活用したWMSサービスを楽しむことができ、通信設備も既存の資産をそのまま利用できるため、メリットは大きい。

ネット・イーではWMSが普及期に入ったとして、今後もAPSを活用したランチデポで中小物流事業者のネットワーク化に力を入れていく方針だ。

同システムを導入する組合員、荷主に対しては、ネット・イーがワンストップ窓口で営業を担当、各種の物流提案活動を積極的に展開していくとしている。

### 物流不動産物件の収益向上サイト 「イーソーコ・プロネット」開設 ～アバンセロジスティック

ネット・イーの中核企業の1社、物流不動産流通ベンチャーの**㈱アバンセロジスティック**は去る11月25日、倉庫専用プロパティマネジメント（資産の運用管理）のセミナーを開いた。

テーマは「物流不動産・変革の潮流と対応策セミナー」。新事業“e-sohko-pro.net”（イーソーコ・プロネット）の概要、物流不動産の現状や戦略的経営などを解説した。

イーソーコ・プロネットはアバンセロジ、㈱幸洋コーポレーション、ネット・イーが共同で設立したプロジェクト。物流、不動産、不動産金融の各専門家によるネッ

トワークを構築、不動産物件の収益向上、物流不動産に関するニーズなどのサポートを目的に、11月から本格稼働を開始している。

不動産の専門家、プロネット委員会・委員長の河田榮司氏（㈱アイムエンタープライズ）、物流不動産コンサルタント、同副委員長の杉山実氏（㈱幸洋コーポレーション）によるセミナーでは、物流施設をとりまく環境変化、収益還元、投資先としての物流施設ほか、物流・不動産・金融の各業界にまたがった講演を行った。

河田氏はプロロジス、AMBブラックパインなど外資系大手による日本物流施設への市場食い込みに触れ、外国と日本の資産見直しなどの温度差を例に解説。

プロロジスの例では日本での物流施設開発のため、シンガポール



セミナーの様様。倉庫・物流事業者32名、不動産・建設・金融38名、ほか計90名が集まった

の政府投資公社と共同で3億7,500ドルものファンドを結成、うち80%はシンガポールの年金資金が占めており、高い運用利回りで戻ることを指摘。「人、モノ、金、情報がグローバル化により今後、世界中に行き交うだろう」との見解を示した。

#### ● 賃貸倉庫情報マッチングサービス “e-sohko.com”

さらにネット・イーの中核を担う**㈱アバンセロジスティック**は、ブランチデポ事業の一環として倉庫に関するポータルサイト“e-sohko.com”（イー倉庫ドットコム）を立ち上げ、倉庫賃貸、サブリース、管理、保管、物流改善など、数千件規模の「賃貸倉庫情報マッチングサービス」を展開している（図表-3）。

本サービスは物流施設の斡旋に留まらず、そこから派生する物流全業務を取り扱う“物流ソリューションサービス・プロバイダー”的位置付けで、業際を越えた諸問題解決を目的としている。

ユーザーは荷主、物流事業者から、不動産事業者、建設事業者、金融業者まで幅広く、照会数は月間約500件、関東、北関東、関西エリアで展開している。

\*

WMS、倉庫マッチングサービス、“物流不動産”への啓蒙活動と、ネット・イーではあらゆるチャネルからユーザーニーズを喚起する、ビジネスモデルへと結び付けている。

「ブランチデポのようなシステムは実は我々の業界、業者内では1歩、あるいは半歩早いものですが、お客様はこういうツールを渴望していました。ロジスティクス改善は経営改善に直結するものですから、今後は海外も視野に入れ、1社でも多くのお客様と共に、Win-Winを目指して行きたいと思っています」と鈴木事務局長は話している。

1 協同組合 物流情報ネット・イー

TEL.03-5439-9500  
http://www.net-e.org

1 ㈱エス・エル・シー（システム開発担当）

TEL.078-367-7790  
http://www.slcweb.net

MF